

内外新報

第十九號

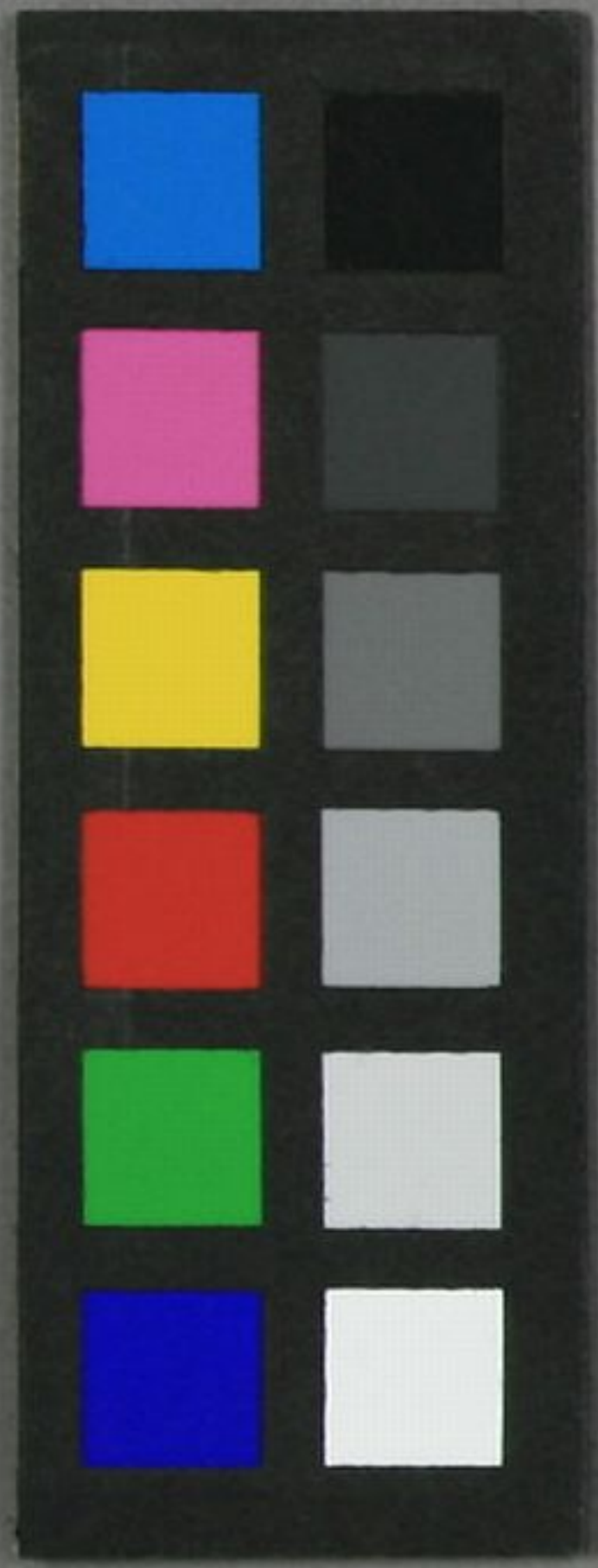


西垣文庫 特

文庫 10

7352

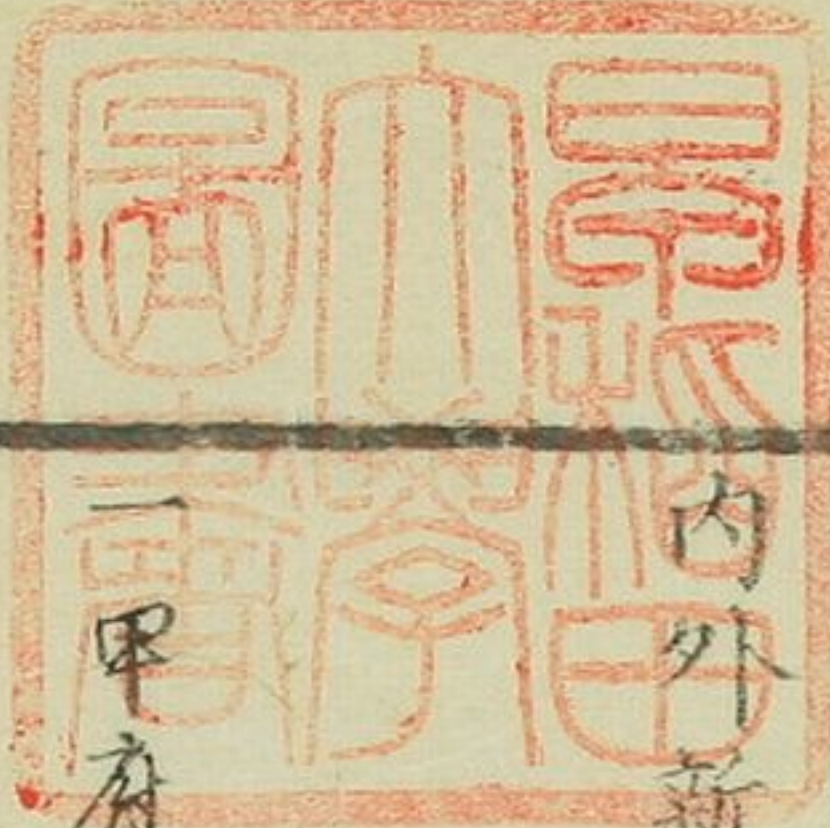
3



特 文庫10
7352
3

内外新報第十九號

慶應四年閏四月二十三日



○甲府よりの風聞書

- 一 甲府所城代水野出羽守人殺也小隊惣勢式百人陣下
と退す所収迄へ陣取
- 一 掛川勢百五十人ほど長禪寺に陣取
- 一 奥平勢百五十人ほど新町の陣取
- 一 遠見川内筋百姓騒ぎをいよし
- 一 越後新原より上陸の脱走兵出雲碓より法務所江に押
加多門國丹波崎川中崎坂山邊より戦事有之松代人

西頭文庫

致残らば甲地を引上りて勝敗の事と詳ありしに

○同日日出福寺より来る状

同日日出相産内より清喉又相成り小派七天皇
はかへ寄清誠下所家より焼たしひそきより山形江
向ひ城備交寄中淡し家上川流あり大合戦は相成
り山形は市中のより派戸切り三日まで引つゞき
打合不おひ小由仙基より由退り清加勢清操出し又
お成るをく沢之位殿新産へ山形人殺し共又清出張
は相成り小跡おく右戦事始りしより山形のため吐
しし西産の

○四月十二日 朝廷より清布告の事

先般 清誓法乃在 清宸翰を以て清命を白 始お外
通り 朝政清一新の時又傳り越々若易笑界と 思在
とありしに 清國体清更張法を在るより清事候より於諸
藩も 清願を母神徳述より改令を大變革致し 宸襟
を安し替り小振をくく小不お海法牙勿偏の事より候
令慶元以還受封し國法制令たりと確とも當今の時勢
は相合さるの候と然廢棄致し清一新の奉本を相立
く 朝廷法為一統し全力を盡しゆくこと日新の 聖
業相致しゆりしより有る然るに 朝廷將門の政權を

事に及し其極のくより優古と申し候へども 朝廷の
行事のそと相ふ候に者も有る候に相付へ候に候
事より作る候 敵意を其体徳一新し奉本を建するに才
一四習固備を打破し賢才を奉け國政を革むるに才
然るに徳薄多く候に任擡を乞ふに才あり門閥を以て政
柄を為す候に才あり随て四習を改め更難除く患あり才
分般 朝廷におわくも其極門流と其廢れ候ものあり
有るにへむに徳薄におわくも世極家格を以て政事を考
らよし方今の事体は相合ふ候に才あり庸才を以て極
へざる為に才あり廢絶し其才を擡擡を以て賢才を登庸

し國政十分と改正候し以て 皇國一體優古し其極を
其極候し以て 其少候に事

右に通知 其出候以上の徳薄速に実效お立アテ若し
其用におん候に其極と有るに向い候より其取
して有る候に其極と諸國巡察使に其向候西に政績
了候 其右に其世有候に其アテ候

才十七章中は其抄版由為候事とのせし其右に令
く其國の誤よし其本月七日日不より出候候もの
就く其確報を以て

城後臨しう来りし暇走兵坂山と攻め城下焼くは城
後城戸隙の突よあかしく我軍よあふび坂山勢敗走の
ころ真田く援兵とゆき落城せは右派徒討ふとしく虎
お勢三百人汗出張去る六日佐勢坂回と通ひせし中

○ 四月橋頭聞子規西人踊躍東人悲踊躍悲憤不免偏已
見戎虜移伊小六十六州因兄弟掠奪願使金甌全君不
見望帝之眼高千古蜀王宮殿棄如土寄語世間忠義人
何不及時修牖戸

失名氏

○ 贈青眼居士并和其韵

欽君為國起諸賢無用吾曹便泰然小院沈々春晝永床
頭笑掩十三篇

六橋外史

○ 徵士井と石見建書一通

概夫園振るりし付雲楨と製造して人力と有器とる
の策急勢と母存の旨言上仕りところも策如何と文
又一序下同と蒙り愚針と願ふは忌く書私のまゝ書
是上り

蒸氣紫楨ハ楨と製し雅々とは先づ水東の一事を以て

考るに中篇の車あとも六十回を巻く故又一回を人の
 考に代るに六十人よりあるの程あり我國民の大故大
 凡四百萬人ともあるとれを一日二拾万石を食は一人食
 割を人あつて必斗づき巻くあり一日に拾万人より及ぶ
 試とて右に拾万人の雇錢をふるると名るとれに幾
 多の失費あるやその酒造等を用ゆる玉の米穀を加ふ
 るとれに弥莫大なるある也一國の奉を計るよの遠
 く爰に眼を垂るは天下に富強のありぬざるは必
 然ありたといは井中又積子を下し水と汲むる家
 らん値は是と思ふ愚とし何故に井戸車を用ひざるや

と怪し同ざるこそは強得んや世人かゝる一家の小費の儘
 易く顯然たる國士の什費といふとざるは歎かてし
 きことなきは人皆一家の府吏を見るごとく一國の人
 民と妻孥し返り嬰孩を以て成し得る限りを極めを是
 こそ人かと費さざる極遠大に思ふと盡さば必富強と
 あり事又何ぞ疑からんや

右愚考の概畧にのほけに然るを是と一家生業のため
 又水車と言ふ事あざれよりの有るはこれ地所等の
 故障よりせしめ賜賚を得ざるは許さざる者も有る哉
 又承りて右考しよもの天下に大益ありし出る事を

知るるの勿論は外傳にも以来右に記すに於て
の公私種室御新に上國家有る事ハ速に御事
しは相成度志下し御と不記為付 官有の御針
十分御事と為る事ハ速に御事と為る事
後上敬白

四月

井上石見

